

令和4年11月市長定例記者会見

日 時：令和4年11月4日（金） 午後1時30分～

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、庄東タイムズ、
ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、保健センター所長、
未来創造課長、河川・港湾課長、市民活躍・文化課長、
農林水産課長補佐

○質疑応答の概要

Q1. 「いみずヘルスアップ+」の実施期間をお聞きしたい。

A1. 令和5年3月31日まで実施し、新年度は対象者数等を拡充して実施したいと考えている。

Q2. 「いみずヘルスアップ+」は、射水市DXビジョンのどれに当てはまるか。

A2. 射水市DXビジョンの中でも、「健康づくり」ということで富山県立大学と共同研究を行っていくテーマとなっている。

Q3. 血圧・脈拍・歩数・睡眠時間の他にも取るデータはあるか。

A3. 健康増進に向けて取ったら良いと思われる他のデータについても技術的に可能であればご協力をお願いすることになる。

Q4. ウェアラブル端末は参加者に贈呈するのか。

A4. ウェアラブル端末は最後まで参加いただいた方にそのままお渡しする。

Q5. ウェアラブル端末は24時間装着か。

A5. 充電時間も必要であるため、入浴等の時間に充電していただき、それ以外は基本的に装着いただきたいと考えている。

Q 6. 「いみずヘルスアップ+」について、今後の事業拡大はどれほどまでと考
えているか。

A 6. 理想としてはできるだけ多くの方にと思っているが、現実的にはウェアラ
ブル端末をどれほど用意できるか等の物理的なこともある。健康データを分析し
て、様々な取組の効果を検証しながら、次に生かしていくことを考えている。

Q 7. 来年度は、今年度より参加人数を増やすのか。

A 7. 正確な数については今後協議を進めていくが、100人ほどにお願いできれば
と考えている。

Q 8. 「かわべの解放 WEEK」における、空いている場所はこういったところを指
すか。

A 8. お店の軒先と歩道の間や、歩道の広がっているところ等を有効に活用して
いければと考えている。

Q 9. 空き店舗や空き家ではないのか。

A 9. そういったところも活用できたらと思うが、実際歩きながら居心地のいい空
間を作っていくといった工夫で、軒先や橋の上等を想定している。

Q 10. WEEK ということで1週間のイベントかと思うが、単発の1～2日間の
催しとは異なるという認識で良いか。

A 10. 一定期間開催することで、地域の皆様にも「期間を通じた感想」や、「暮
らしていく中でもっとこういう風なことができれば」というような思いも聞
かせていただければと思っている。聞かせていただいたことを未来ビジョン
の策定に生かしていきたいと考えている。

Q 11. 「かわべの解放 WEEK」は社会実験ということであるが、利用者等の意見
をどのように集めることを考えているか。

A 11. お店の中での反応や、ご意見を聞かせていただく仕掛けを考えていきたい。
また、アンケート等も活用できればと考えている。

Q 1 2. 「射水周辺エリアプラットフォーム（仮）」の「(仮)」は、付けなければならないのか。

A 1 2. 活動の体制自身は整っているが、まだ正式にこの団体が設立されたという形になっていないため「(仮)」を付けている。

Q 1 3. 7月に制度化された民間提案制度について実際の手ごたえをお聞きしたい。

A 1 3. 民間提案制度について、10月中にご提案いただき、今は内容の確認や審査を行っており、12月の議会には内容を報告する予定になっている。7月にスタートしてから、サウンディングの期間を設けさせていただき、この期間にも30を超えるご相談をいただいた。その中から10を超える実際の提案をいただき、どの提案に効果があるのか等の審査を行っていただいているところである。「このような制度はいい」、「来年は参加したい」等の声をいただいた。

Q 1 4. 具体的にどのような提案が行われているのか。

A 1 4. 脱炭素に寄与するような提案が比較的多い印象である。

Q 1 5. トライアル事業である足洗潟公園でのイベントを視察して感じられたことをがあればお聞きしたい。

A 1 5. 当日は雨が降っていたが、たくさんの方にお越しいただき賑わっていた。足洗潟公園については、長寿命化や魅力向上ということでドックランなどを作る等の取組みをしてきた。こういったイベントと合わせることで、より資源の魅力を生かせると感じた。実証された方から概ねいいお声をいただき、調整がつけばこのようなイベントを今後も行っていきたいと考えている。

Q 1 6. 自動運転の現実化への思いをお聞きしたい。

A 1 6. 構想としては、自動運転のバスを運行させたいと考えている。県立大学との共同研究のテーマとしており、自動運転の車がどういう仕組みで動いているのか、どのような情報を得て安全に走行しているのかということを検証するために、今回試乗会を企画されたとお聞きしている。将来、自動運転のサービスを展開して、安全に、安心して市民の方々にお乗りいただけるよう、実現に向

けて取り組んでいきたい。